

- ア. 文章に描かれた人物, 情景, 心情などを表現に即して読み味わうこと。
- イ. 文章を読んでもものの見方, 感じ方, 考え方を広くし, 人間, 社会, 自然などについて考えを深めること。
- ウ. 文章の読解, 鑑賞に当たっても書く活動の機会をできるだけ設け, 表現力, 理解力の向上に役立つようにすること。

② 口語訳における三つの段階

- ア. 4名で分担を決め, 直訳する。
- イ. 4名で協力し, 口語訳を練りあげる。
- ウ. 各自, 個性的な口語訳を作る。

3. 概要と考察

(1) 研究の経過

① 検証授業計画

- ア. 単元名——源氏物語——  
心づくしの秋風 (須磨の巻)
- イ. 単元の目標—— (省略)
- ウ. 指導計画 (総時数11時間)
  - ・ 通読, 直訳の作成…………… 3時間
  - ・ 口語訳の練りあげ…………… 4時間
  - ・ 各自の口語訳作成…………… 4時間
- エ. 指導過程

準 備
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の目標と学習方法, 形態の確認</li> <li>・ 「須磨」までのあらすじ理解</li> <li>・ 全文通読</li> </ul>



口語訳の作成
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直訳の作成</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題プリントによる心情把握</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループの口語訳の練りあげ, 記録</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各自の口語訳の作成</li> </ul>



ま と め
・ 口語訳の発表会

(2) 検証と考察

① 授業の考察

- ア. 2単位の授業であり, 間に考査や行事が入ったので, 授業が長期にわたり, 集中やまとまりを欠く結果となった。
- イ. プリントの問題に取り組む時間が十分でなかった。また, 予定通り進まないグループが2, 3あった。
- ウ. 「源氏物語」のあらすじと朗読 (関弘子) のテープを聴く機会をもった。これは, 授業を長期化させることにもなったが, あらすじをとらえさせるうえで効果的であったと思う。
- エ. 古語辞典, 現代語訳の「源氏」, 漫画化されたもの, その他の参考書類を利用する生徒の姿が多く見られた。これは, 生徒が意欲的に取り組んだことの表れである。
- オ. グループの人数を4名 (小人数) とし, 役割を分担させたので, 各自が責任を持ち, 真剣に学習に参加した。
- カ. 生徒からの質問は, 普段よりかなり多かった。またグループ内におけるお互いの意見交換も, たいへん活発であった。

